

05 新技術を取り入れた都市づくりの実践

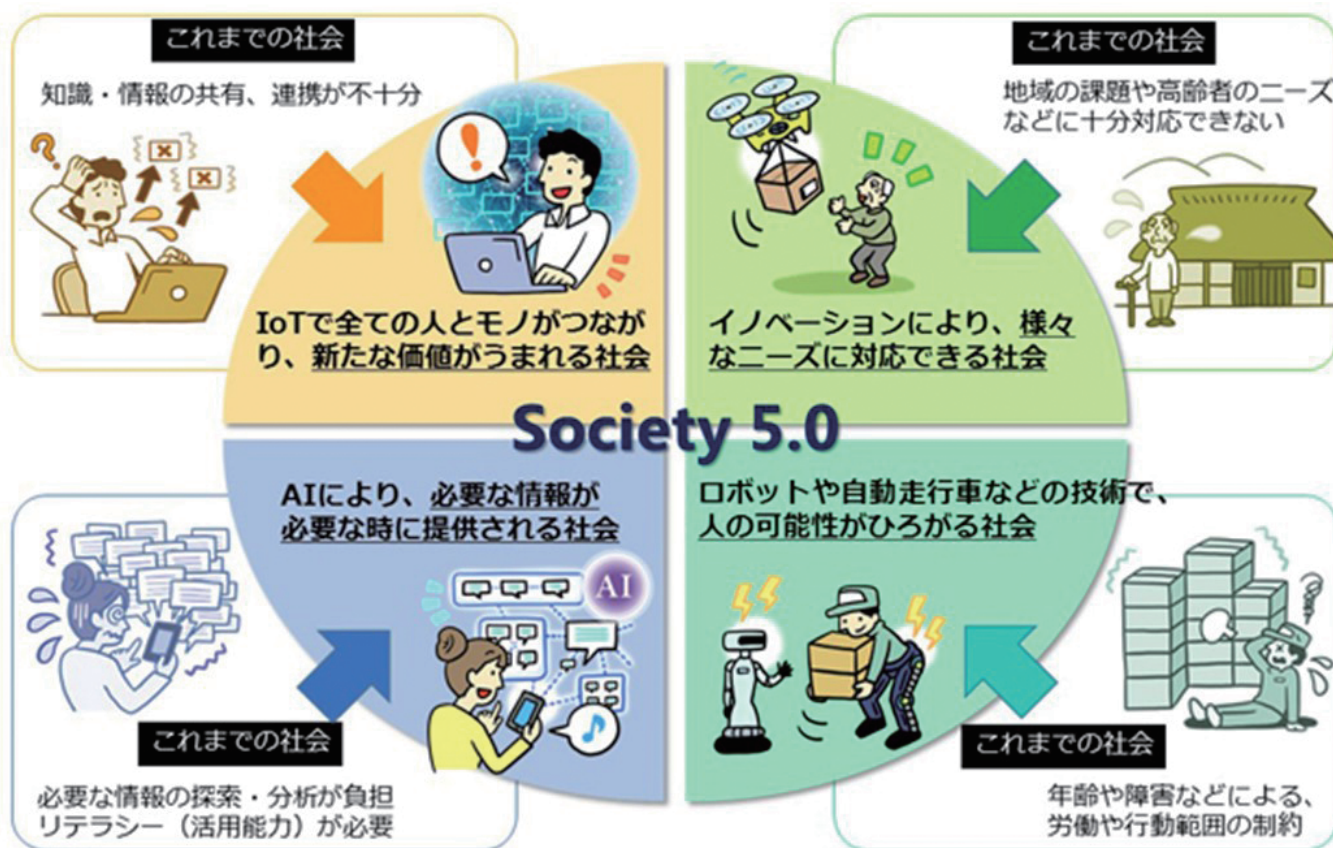
ICTの進展により、自動運転車、ロボット、人工知能(AI)など、都市づくりや交通、産業エネルギーなどに大きくかかわる様々な技術が開発されつつあります。今後、これらの最先端のテクノロジーを適切に都市に実装しつつ、防災、環境、産業など様々な分野が連携しながら、都市課題を解決していくことが求められています。

我が国がめざすべき未来社会の姿として提唱されたSociety5.0で実現する社会では、IoT(Internet of Things)ですべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されます。

県においても、技術の進展に合わせて、これらの新技術を取り入れたまちづくりにより、様々な課題の克服を図ることが求められています。

Society 5.0で実現する社会のイメージ

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)のこと。狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国がめざすべき未来社会の姿として初めて提唱された。



内閣府資料より

横須賀MaaSシティ実現コンソーシアムの概要

(国土交通省スマートシティモデル事業重点事業化促進プロジェクト)

■対象区域のビジョン

横須賀市が掲げる3つのスマートシティのビジョンのひとつである「活きの溢れるまち」では、域外からの訪問者にやさしく、多様な人々が絶えず市内に流入し、自らのコンテンツ、文化をしなやかに発展させることを目指している。また、テクノロジーを活用して、まちの魅力を効果的・効率的に発信することで、持続的な産業活性化を実現することを目指している。

■モデル事業の取組み内容

ロードマップの最終形で目指す分野横断的な人流コントロール技術の基礎を確立すべく、まずは投資効果の高い「産業活性化」を対象として、横須賀市内で京急電鉄の観光きっぷを利用する観光客を対象に域内周遊性を向上させるデータ提供機能を有したスマホアプリを導入して、交流人口の増加に係る効果を検証。



国土交通省 R01/5/31 記者発表資料より引用